

深浦校舎図書だより

上橋菜穂子著「鹿の王」

今年の2月に「鹿の王 ユナと約束の旅」というアニメーション映画が公開されました。この作品は、2015 年本屋大賞受賞作、上橋菜穂子著「鹿の王」を原作としたものです。その内容のスケールの大きさにアニメ化することが難しいとも言われていました。当初は 2020 年に公開予定でしたが、コロナ感染症の拡大の影響で、2 回公開延期され、今年公開されたものです。作品の内容も、感染したら死に至る謎の病に纏わるもので、コロナ禍の今だからこそオリジナルの作品を読んでみるとおもしろいと思います。帝国の支配下で繰り広げられる民族の対立をテーマとしたこの作品の中で、謎の病で親を失った少女ユナと旅をする主人公ヴァン、2 人のほのぼのとした関係がひと時の安らぎを与えてくれます。上下巻各 500 ページの超大作ですが、わりと読みやすい文章のスタイルですので、借りて読んでみてください。



読んだ本の紹介

小さな習慣

(スティーヴン・ガイズ／著 田口 末和／訳) 小角 匠斗

みなさんは、何かを続けようとして失敗した経験はあるだろうか。私は意思が弱く、何事も続かないことが悩みだった。だが、この本に載っている「小さすぎて失敗すらできないちょっとしたポジティブな行動」を実践したことで、その悩みが解消されつつある。

この本を読み、特に印象に残っている内容は、「腕立て伏せ一回チャレンジ」である。これは私が実践している一つだ。30分の運動は、私にとっては目の前に立ちはいかかる訓練だった。だが、たった一回の腕立て伏せが、難しかった30分の筋トレにまで発展したのだ。

「自分の生活を変えたい」そんな思いがある人は、一度この本を読んでみて欲しい。



失敗礼賛

(小島慶子／著)

竹内 仁



この本は、失敗することについて綴られている本です。私は、この本を読んで失敗することは、悪いことだけではないと学びました。失敗することにより、得られるものは大きく、人は失敗してこそ成長できることが分かりました。また私自身、失敗することを恐れることが多いです。しかし、この本を読んで考え方が変わりました。これからは、失敗することを恐れずに生きていこうと、自信を持つことができました。もし失敗することが不安な人は、この勇気をもらえる本を読んでみて下さい。

かかわると面倒くさい人 (榎本博明／著)

三上 航平

かかわると面倒くさい人という本は、社会に多い面倒くさい人について説明する本です。

私はこの本を読んで、一つ気をつけたいと思ったことがあります。それは、自分も面倒くさい人だと思われるかもしれない事です。この本には、面倒くさい人の特徴が書かれています。私は終わった事に後悔して考え込む事が多いのですが、この本を読んでからは、後悔することはやめようと決めました。

もし、人間関係でうまくいかない時は、この本を読んでみてください。周りの人から面倒くさい人だと思われるかもしれません。そして、これだけは知っておいて下さい。自分の面倒くさい部分は、自分では見えにくいことです。



航平君がおもしろい作品を紹介してくれました。

出版社（日経経済新聞出版社）のホームページの紹介文を併せて掲載します。

「話をややこしくする天才」はこうして生まれる。

他人を疲れさせる「あの人」の心理構造を徹底分析。

- ・「えっそこで?」というポイントでキレル
- ・はっきり言いたいことを言わずに忖度を期待する
- ・話が長くて何が言いたいかわからない
- ・悪気なく、他人を傷つけるような発言をする
- ・小さな話を大きくして、そしてこじらせる
- ・「そういうことが言いたいわけじゃないのに」ということばかり・・・

なぜあの方は心のエネルギーを吸い取るのか。

職場、ママ友、親戚づきあい、日常のさまざまな場面で遭遇する厄介な人の心理構造を10タイプに分けて分析。

人間関係にストレスをためたくない人の必読書。

社会にでると、いろんなタイプの人があります。皆さんもストレスをためないように人間関係に気を付けましょう！！

大人の嘘つきな大学生 (浅倉秋成／著)

黒滝真歩



この本は、就活の最終選考でのグループディスカッション。残った六人の中から自分たちで誰が最後の一寸にふさわしいか決めていく中で、事件が起こる物語です。

私は就活をまだしていないからあまり分かりません。だけど、以前面接練習をしたことがあり、すごく苦労しました。結局は運なのかなと、感じるころがありました。他の本では就活を中心としたミステリー系の物語がないと思うので、就活をしている人にぜひ読んでほしいです。